

道成寺伝説をめぐるアダプテーション

共立女子大学 文芸学部
土田牧子 2021

1

アダプテーションとは

『日本国語大辞典』

- 適合・適応・順応
- 映画、音楽、小説などにおいて、もとの作品をそれぞれの目的に適するように改作・脚色すること。潤色。翻案。

リンダ・ハッチオン『アダプテーションの理論』晃洋書房2012

- 他者の手によるものと確認できる単一もしくは複数の作品を創造的および解釈的に置き換える作業

2

たとえば『オペラ座の怪人』

- 原作はガストン・ルルーの新聞連載小説『オペラ座の怪人』1910年（初版）



- 何度も映画化・テレビドラマ化

- ミュージカル『オペラ座の怪人』

1976年 ケンヒル『オペラ座の怪人』

1986年 アンドリュー・ロイド・ウェッバー『オペラ座の怪人』

1991年 アーサー・コピット『ファントム』

3

身近なアダプテーション

- 小説の舞台作品化・映画化・ドラマ化
- コミックスの舞台作品化・映画化・ドラマ化
- 映画やドラマの小説化（ノヴェライズ）
- 2.5次元舞台

コミックスやゲームの舞台作品化

様々なメディア間で
アダプテーション

※メディア=人から人へ情報を
伝達する手段や仕組み

4

※著作権の都合上、『道成寺縁起絵巻』の画は省略します。

道成寺伝説 どうじょうじえんぎ
仏教説話集（平安時代中期） → 『道成寺縁起』

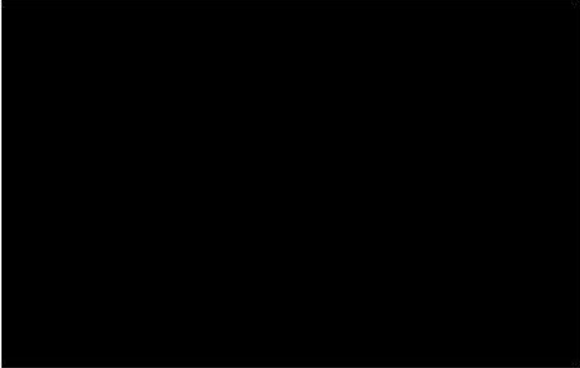
- 仏教説話集：釈迦の奇跡や高僧の逸話、仏教の教えを物語風に分かりやすく説いたものなどを集めた書物
- 道成寺（どうじょうじ）：和歌山県にある寺
- 縁起（えんぎ）：寺社の由来や靈験（神仏による奇跡）を語るもの

『道成寺縁起絵巻（どうじょうじえんぎえまき）』

- 道成寺蔵
- 土佐光重画
- 室町末期の作と推定される

5

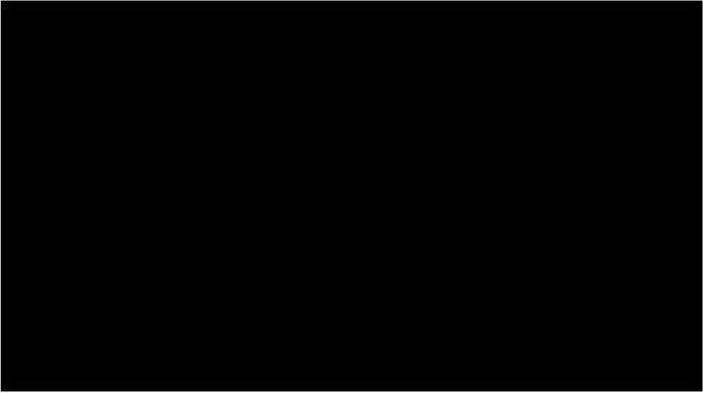
道成寺縁起絵巻



『道成寺縁起絵巻』
『道成寺』小学館（1982）より


真砂の庄司という男のもとに熊野参詣の一人の若い僧侶が宿をとりました。すると、この家にいた女が若僧に一目惚れしてしまいます。若僧は熊野からの帰りに再び立ち寄ることを約束して、旅立っていきます。

6



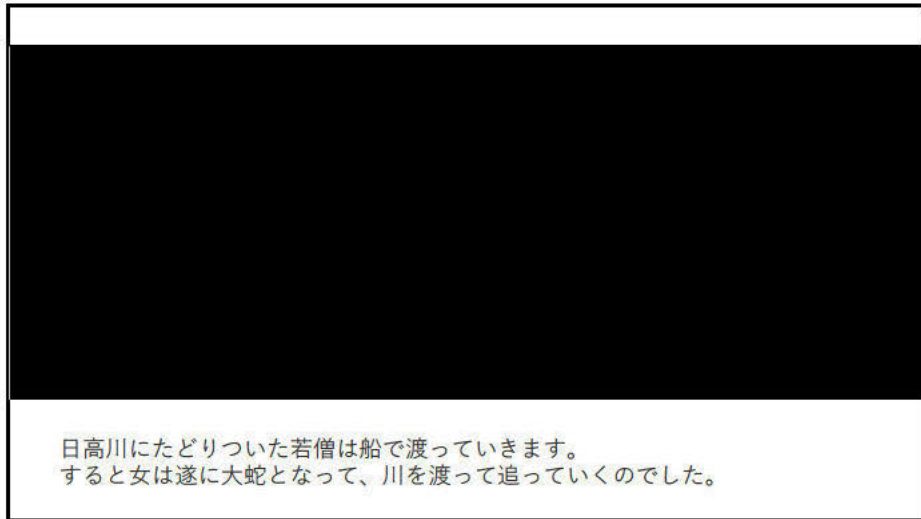
しかし、約束の日になっても若僧は来ません。
女は旅人の目もかまわず、若僧を追い求めはじめます。

7

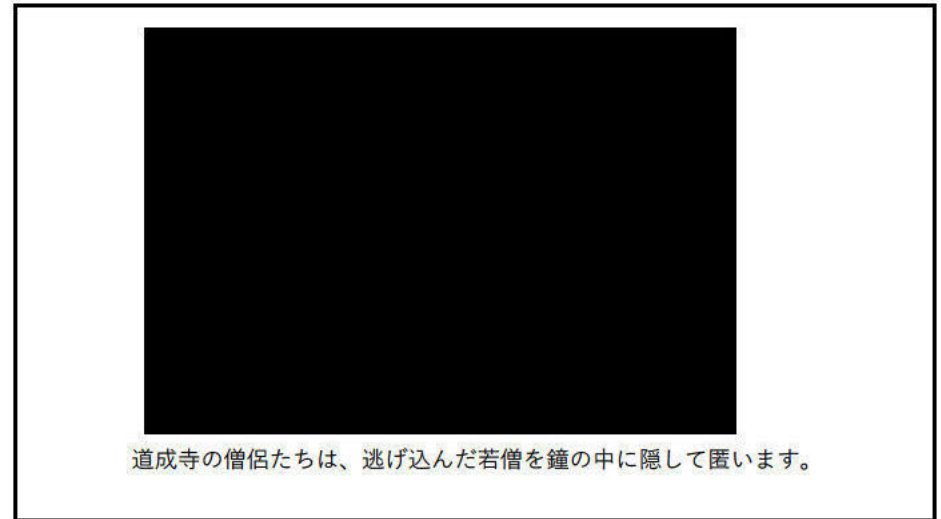


逃げられたことに気づいた女は、どこまでも若僧を追っていきます。
次第に火を噴いたり、上半身が早くも蛇体になったりしています。

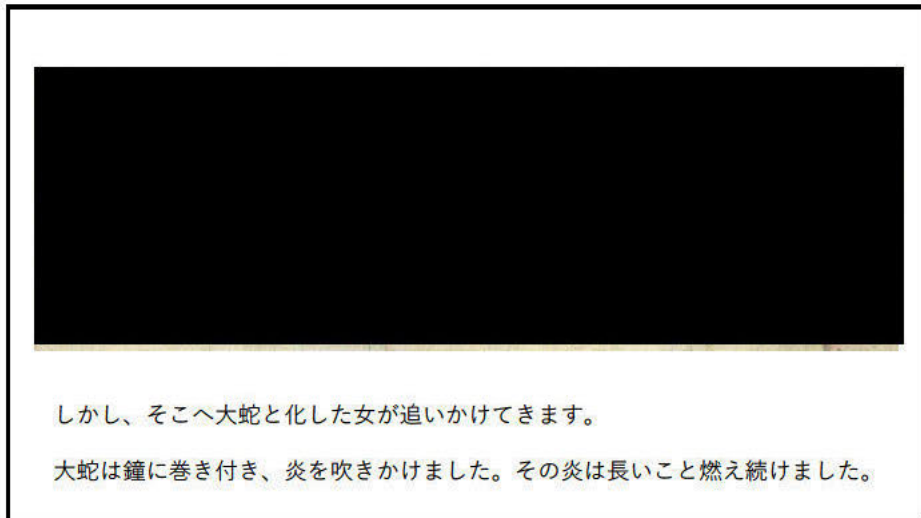
8



9



10



11



12



その後、道成寺の僧侶の夢に、この女と若僧が二匹の蛇となって現れたので法華経供養を営みます。すると数日後、二人は穢れのない姿で再び夢に現れ、仏の世界に帰ったと告げます。そもそも、二人は法華経の教えを伝えるために出現した仏の化身であったのです。

13

道成寺伝説

- 仏教説話・道成寺縁起（仏教の教えを説く）



- 恋愛部分がクローズアップ



- 様々なジャンル・作品に脚色される = アダプテーション

女⇒清姫（きよひめ）
若僧⇒安珍（あんちん）

安珍清姫伝説

14

古典芸能における道成寺伝説

- 文楽
- 能
- 歌舞伎

15

文楽（ぶんらく）：人形浄瑠璃（にんぎょうじょうるり）

- 文楽の特徴
 - ・ 江戸時代に歌舞伎と人気を二分
 - ・ 人形を遣う（人間にはできない動き、仕掛けによる演出が可能）
 - ・ 複雑な人物関係を伴う歴史長編
- 長いストーリーの一場面に、恋をする少女が男を追いかけて川を渡る場面を挿入
 - 恋する少女：清姫という名前だが、道成寺縁起の女とは別人物
 - 男：実は親王・敵から逃れるために安珍という僧侶に

16

人形浄瑠璃 (文楽)



17

文楽の「道成寺」映像

18

能『道成寺』

- 能の特徴
 - ・ 室町時代に成立した歌舞劇
 - ・ 謡 (うたい: 能に特有の声楽) ・ 囃子 (はやし)
 - ・ 様式的な舞
 - ・ 面 (おもて) の使用
 - ・ 夢幻的な世界観の中に人間心理の本質を描く



能面
東京国立博物館蔵

能『道成寺』

道成寺の鐘が失われてから長い年月が経ったある日。鐘を再興することになり、女人禁制が敷かれる中、鐘供養が始まる。そこに白拍子 (女性芸能者) が現れて舞を舞うが、鐘に近づくや鐘が落下し、白拍子はその中に消える。鐘が再び持ち上ると、中には大蛇と化した白拍子がいた。大蛇は僧侶に襲い掛かるが、仏教の力で折り伏せられる。

19

能『道成寺』

- 道成寺の鐘が失われてから長い年月が経ったある日
= 後日譚 (ごじつたん) = 後の物話

↓

若僧に対する女の執念 → 鐘への執念として表現

- 特徴的なところ
 - 乱拍子 (らんびょうし)
シテ (主人公) の足遣いと小鼓のみ
強い緊張感
 - 急ノ舞 (きゅうのまい)
能の舞の中で最もテンポの速い舞
乱拍子の「静」から一気に急ノ舞の「動」へ



鐘への執念

20

能の『道成寺』
乱拍子部分の映像

能の『道成寺』
急ノ舞部分の映像

21

歌舞伎

『京鹿子娘道成寺（きょうがのこむすめどうじょうじ）』

• 歌舞伎の特徴

女形（男性が女を演じる）
華やかさ
役者本位

• 歌舞伎『京鹿子娘道成寺』

能『道成寺』を下敷きに行っている
華やかな女形を見せることに主眼
女形の様々な姿や表情を見せる



22

『京鹿子娘道成寺』

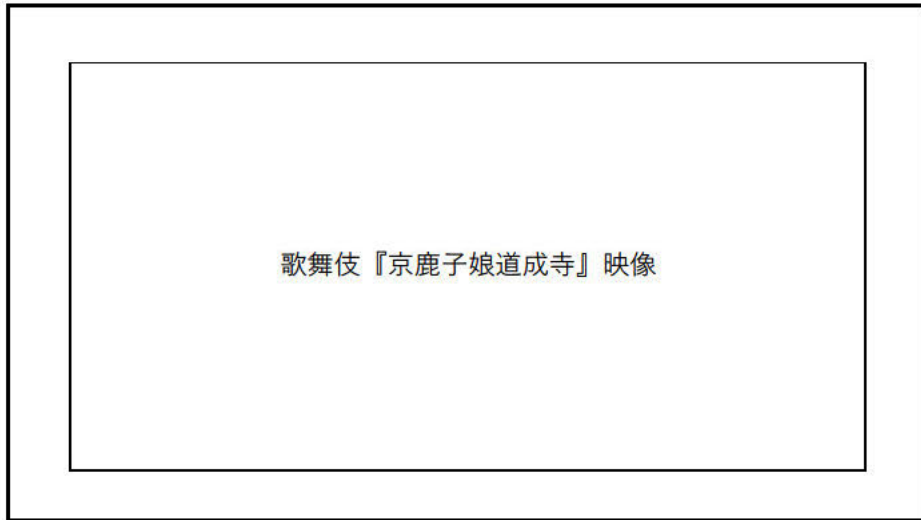
- 全体を組曲のように構成
- 能『道成寺』からの借用は最初と最後のみ
①・②と⑩
- 中心部分は女性の様々な恋の歌を
- 一人の女形が踊り分けることに主眼を置く
- ストーリー性は希薄
- 衣裳・小道具・曲調・歌詞などを
変えながら、一人の女形が様々な姿を見せる

- ①道行（みちゆき）
- ②中啓（ちゅうけい）の舞
- ③手踊：小道具なし
- ④鞠歌
- ⑤花笠の踊
- ⑥手拭いのクドキ
- ⑦鞆鼓（かっこ）の踊
- ⑧手踊
- ⑨鈴太鼓
- ⑩鐘入り

23



24



25

それぞれのメディアの特性をいかした表現

- 絵巻物
- 文楽
- 能
- 歌舞伎

- 表現の方法異なる
→
- 人物設定の変更
- ストーリーの変更
- 作品テーマの変更

パフォーマンス形態へのアダプテーションは劇化することを考えなければならない。叙述、語り、描出された思考を発話、行動、音声、そして視覚映像へと変換しなければならない。

こうした劇化の過程である程度の強調の置き換え、そしてテーマ、人物、プロットに対する焦点の当て方の変更は避けがたいのである。

リンダ・ハッチオン
『アダプテーションの理論』

26

• (Hutcheon) emphasized the importance of ①situating adaptations within a broader framework, ②relating to political, economic and legal circumstances, and ③defining the participants contributing to the adaptations: the 'adapters', the audience and the cultural context.

Jorgen Bruhn, Anne Gjelsvik and Eirik Frisvold Hanssen
"Adaptation Studies; New Challenges, New Directions"

ハッチオンが重要性を強調していること

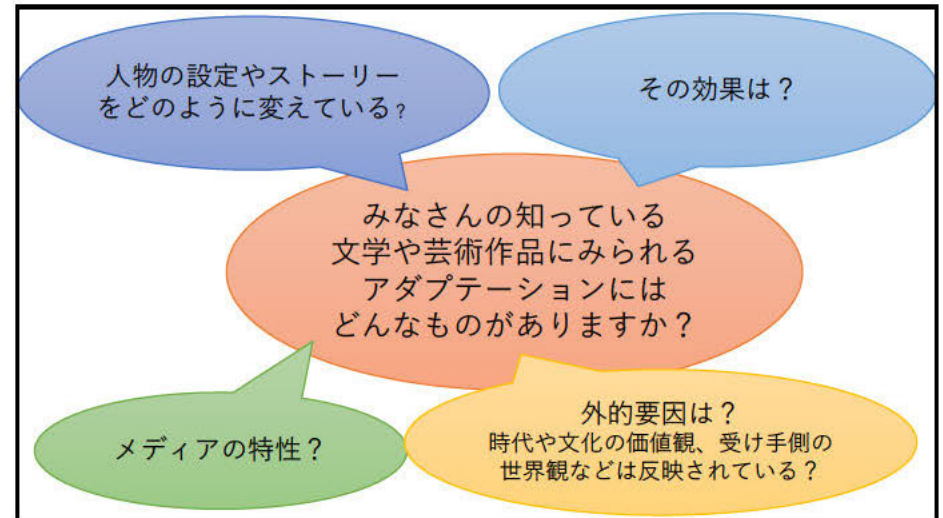
- ① アダプテーションをより広い枠組みの中に位置づけること
- ② 政治的、経済的、法的な状況と関連づけること
- ③ 「改作者」、オーディエンス、文化的な環境という、アダプテーションに関わる要員を定義すること

* 「改作者」= 作家・映画監督・脚本家など= 作り手側

* オーディエンス= 観客・視聴者・読者など= 受容者・受け手側

外的要素
の重要性

27



28